



SDGsに貢献している東海会会員紹介

日時：2023年10月19日(水)12:30~15:00

場所：クロスコートタワー11階 東海会事務局

対象者：古里 圭史さん

インタビュー：柘植副会長

報告者：広報委員会 委員 和田 康兵 長尾 悠太

第二弾となる今回からはしばらくの間、SDGsに貢献している東海会の会員の方のご紹介をさせていただきたいと思っています。今回ご紹介させていただきます古里さんは監査法人での勤務の後、まさにふるさとである飛騨に戻られ、飛騨信用組合にて「さるほほコイン」という地域限定の電子通貨を開発され、飛騨地域の経済の発展に貢献されました。その後、現在は独立され、会計事務所を経営される一方で、慶應義塾大学大学院で特任准教授を勤めながら、複数自治体のアドバイザー、地方創生支援のための財団の設立など本当に幅広い分野で活躍されています。

インタビュー時には本当にいろいろなお話をお聞きすることができました。時間を忘れてしまうほどとても楽しく素晴らしいお話ばかりで、一貫して地方創生に貢献する活動をされていることに感動しました。その一部とはなりますが、皆様にもご紹介させていただければと思います。

〔古里圭史さん プロフィール〕

公認会計士・税理士

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任准教授

非営利株式会社eumo 取締役

一般社団法人飛騨高山大学(CoIU) 設立基金 CFA兼 監事

株式会社フィラメント エグゼクティブコンサルタント

グラスルーツ アカウンティングファーム 代表(※会計事務所)

株式会社リトルパーク 代表取締役

北海道 上川郡 東川町 産業振興 ファイナンスアドバイザー

岐阜高山政策コーディネーター /SDGsアドバイザー /CDO補佐官

富山県南砺市政策参与

STATION AI(愛知県)メンター

その他、決済系スタートアップ企業数社の顧問・アドバイザー

〔古里さんの経歴〕

柘植さん：まず、古里さんの経歴についてはなかなかユニークであるとお聞きしていますが、その内容について教えて下さい。



古里圭史さん

古里さん：大学では基礎医学の研究なども行う理学科に入学しましたが、大学卒業後は就職せず、バイトをしていました。そんな中、当時のバイト先のつながりでスクエア・エニックスに登用の声をかけていただき、2005年に入社しました。スクウェア・エニックスでは総務部としてオフィスの管理メンテナンスや庶務、株式管理を担当していましたが、在職中に会計に興味を持ち、公認会計士の資格取得を本気で目指すことにしました。結局会社は1年ほどで退社し、その後短答式試験に合格し、トーマツに入社しました。

トーマツでは、働きながら翌年2008年に論文式試験に合格することができました。その後、現場主任を含め一通り担当し、IPO支援に加えて上場企業の監査などを行いました。当時は新しいインターネット関連の会社やFX取引の会社などを担当し、それらの業界の知識を深めることができました。

柘植さん：その後、約5年間トーマツで勤務され、退所されたということですが、どのようなことがきっかけで監査法人を退所することになったのでしょうか。

古里さん：2009年ごろに飛騨信用組合では、ちょうど組織改革のプロジェクトが進んでいるところでした。その改善の最中、事業計画を作成できるような人材を欲しており、また地元の飛騨高山への貢献という点でお誘いを受けました。

また、お誘いしてくれた当時の理事長がビジョナリーな方であったため、想いに惹かれ監査法人を退所し、2012年10月、飛騨信用組合へ入組することにしました。

電子地域通貨さるぼぼコインについて

2017年12月4日 地域通貨の電子化事業をスタート



マス向けサービスとして同方式を採用したのは国内初

【さるぼぼコインについて】

柘植さん：飛騨信用組合に入組された後、どのようにしてさるぼぼコインを企画するに至ったのでしょうか。

古里さん：飛騨信用組合では、まず融資部の企業支援課長補佐として勤務し、取引先の事業支援や自己査定などを経験しました。当初は、信用金庫と信用組合の違いも分からず、多くのことを勉強しました。

信用組合は、非営利の金融機関であり、税制優遇がある反面、営業エリア外から原則、預金を受け入れたり、貸出しを行ったりができません。そのため、地域に密着した経営となり必然的に営業エリアのマーケットに連動した小規模な金融機関となります。当時、リーマンショックや大震災の中で、世の中の目が地方へ向いてきているようにも感じていました。銀行業界はやはりストックビジネスですのでメガバンク、地銀といったように暗黙のヒエラルキーがありますが、これからはより規模が小さく地域に密着した信用組合のような協同組織金融機関こそが花形になるようなタイミングではないかと感じ始めたのです。そのため、経営層に対して様々な施策を積極的に提案していききました。

柘植さん：その施策がさるぼぼコインにつながっていったということでしょうか。

古里さん：いろいろな施策を実施する中、マクロ的な視点でも、地域の信用組合が、どのように地域経済に貢献できるかを考え、まさにCSV経営を体現する取り組みとして考えたものです。

組合のもともとの取り組みとして紙で運用していた組合員のお店で利用できるクーポン券の取り組みがありました。これは紙ベースで発行されていたため、その管理が煩雑で何とか改善したいなど思っていました。また、飛騨地域は観光産業が盛んですが、観光客を中心に、決済手段の多様化に対応して欲しいという強い要望があったんです。この内と外、2つの課題に同時にアプローチするには、、、ということで電子化した新しい決済手段かつ地域通貨というアイデアが生まれました。監査法人在職時の経験でデジタルプラットフォームやITなどについての素養があったことや、前職であるスクウェア・エニックスのオンラインゲームサービスの仕組みの知識などが、こういった着想につながったのだと思います。そして、地域で親しまれているアイコン「さるぼぼ」を名に冠した「さるぼぼコイン」として事業化し、2017年12月4日にローンチすることとなったのです。
※さるぼぼ：岐阜県飛騨地方で作られる「猿の赤ちゃん」の人形

さるぼぼコインでは、チャージや換金に、飛騨信用組合の口座を利用するため、新規の口座の開設数が大幅に増えるという効果もありました。融資での付き合いのみだと、お客様と直接お会いするのは年に数回のみですが、決済を通して、加盟店の方と多くのコミュニケーションがもてる仕組みにしました。その結果、新たな取引機会の創出にも繋がりました。

柘植さん：PayPayといった他の電子決済との相違点は何でしょうか。

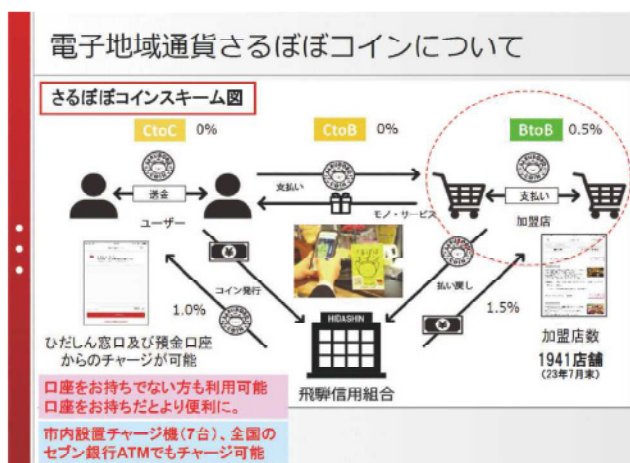
古里さん：チャージをしてお店で使うという機能面では、他の電子決済手段と変わりません。一方で、発行したさるぼぼコインは、域内の地元資本の加盟店でしか使えません。また、特徴的なのは加盟店での仕入れなどB to Bの決済で利用できるという点です。域内限定かつB to Bで使えるようにすることで、地域通貨としての効果が発揮され乗数効果により、域内の価値が高まるとの考えです。

また、電子決済のための加盟店のインシャルコスト、ランニングコストが掛からない仕組みにしていたり、愛着を持ってもらい利用を習慣化するた

め、地域のためのアプリケーションであることの啓蒙や著名なデザイナーを起用しデザインワークを重視しているなど工夫をしています。

そんな取り組みの中、新型コロナウイルスの蔓延による非接触決済の普及もあり、また、他の電子決済のモデルケースとされたことで、さらに普及が進むことになりました。

柘植さん：あくまでも地域内での経済循環を促進し、地域内経済が活性化するというところが素晴らしい効果ですね。観光客からの収入も域内へ取入れ、域内経済の地産地消を実現しているのですね。



【現在の活動について】

柘植さん：その後は、飛騨信用組合の理事を2021年6月に退任し非常勤の監事となり、2022年には監事も退任されたとのことですが、現在の活動について教えてください。

古里さん：一つは、私が立ち上げたリトルパークという会社にて、ファンドや基金の企画・組成などを行っています。GP (General Partner) となることまでは現在はしていませんが、将来的にはエクイティ投資ができるローカルファンドを立ち上げたいと思っています。もう一つは、慶応義塾大学大学院の政策・メディア研究科特任准教授を務め、パブリックマネジメントやソーシャルファイナンスなどを教えています。また、GRAFという会計事務所では税理士業務(記帳代行など)、会計業務(IPO支援、内部統制構築支援、財産評価など)を行っています。

その他には、複数の自治体の公民連携事業支

援や顧問をしています。企業が、自治体と連携して事業を実施する際、そのコーディネートを行ったり事業計画の整理などを行っています。北海道の東川町では産業振興ファイナンスアドバイザーを、高山市では、政策顧問、SDGs推進アドバイザー、CDO補佐官、富山県南砺市では政策参与となっています。

柘植さん：北海道の東川町では具体的にどのようなことをしているのでしょうか。

古里さん：公民連携事業の創出など様々です。例として、今、企業版ふるさと納税などを活用し、同町と三菱地所のワーケーション連携のプロジェクトを進めています。

また、飛騨高山では2023年8月下旬には地元のNPO法人与共に「ひだ財団」を立ち上げました。ここでは、飛騨地域の事業者・行政などのプレイヤーと地域外の事業者とのマッチング・ネットワークングの機会を創出し、地域の課題解決にアプローチすることを目指しています。現在は北海道と飛騨・高山を中心に活動していますが、一緒に働いてくださる会計士、税理士を募集しているので、ぜひお声をかけてくれると嬉しいです。

【終わりに】

一貫して、地方創生に貢献する活動をされている古里さんですが、その中でも会計知識の重要性を痛感されており、本当に公認会計士になって良かったと言われていたのが印象的でした。まさにプロフェッショナルパートナーとしてSDGsに貢献されている公認会計士であると感じました。



長尾さん、古里さん、柘植さん、和田さん